

1 土寄せとネギの生育

【土寄せの目的・メリット等】

- 葉鞘を伸ばし、太さと軟白長を確保する。
- 生長点（盤茎部）を暑さから守り、生育を維持する。

◇**葉鞘の太さ 15 mmを目安に土寄せを開始**

- タイミングが**早い** → 十分に太りにくい
- タイミングが**遅い** → 倒伏、曲がり、首元の緩み

【土寄せによるデメリット等】

- 「土寄せ」による「根の切断」と「葉への傷」が**土壌病害（軟腐病等）、生育障害につながる**ことがある。
- ◇傷口からの病原菌の侵入を防ぐため、**土寄せしたら軟腐病等を防除**（ラベルの使用方法に従う）。
- ◇特に、**高温時（7月中旬から9月中旬：気温30度以上）は土寄せをできる限り避ける**。

2 土寄せの方法

【土寄せ：右図③～⑤】

- 畦間を管理機で歩く

「手前から入って深さを確保」

- 初回は軽めにし、寄せた土が崩れにくくなるよう横から見て**M字形**にする。

「M字の肩部が土留めになり土が落ちにくい」

- 土寄せの高さは、**5～7 cm/回を3回**。
- 葉の**分岐部の約1 cm下まで**（③～⑤）。
- ネギが5 cm程度伸びるごとに行う。
（目安としては2～3週間に1回）

【止め土：右図】

- 年内収穫では収穫の30～40日前を目安に行う。
- 最終土寄せ（止め土）はネギの首元まで寄せる。
- 目安：葉の分岐部の3～5 cm上まで土を上げる。
（土寄せ高5～10 cm）
- 軟白長30 cm以上を確保する(目安棒を参考)。

【土寄せ時には追肥も】

- 追肥目安：窒素・カリを各4～5 kg/10a程度。

- 追肥が適正でないと病害が発生しやすくなる

⇒ **過剰施肥：べと病、軟腐病（※特に高温時は注意）** **肥料切れ：黒斑病、葉枯病**

※土寄せ時のイメージ

・②を実施後



・③を実施後



・止め土を実施後

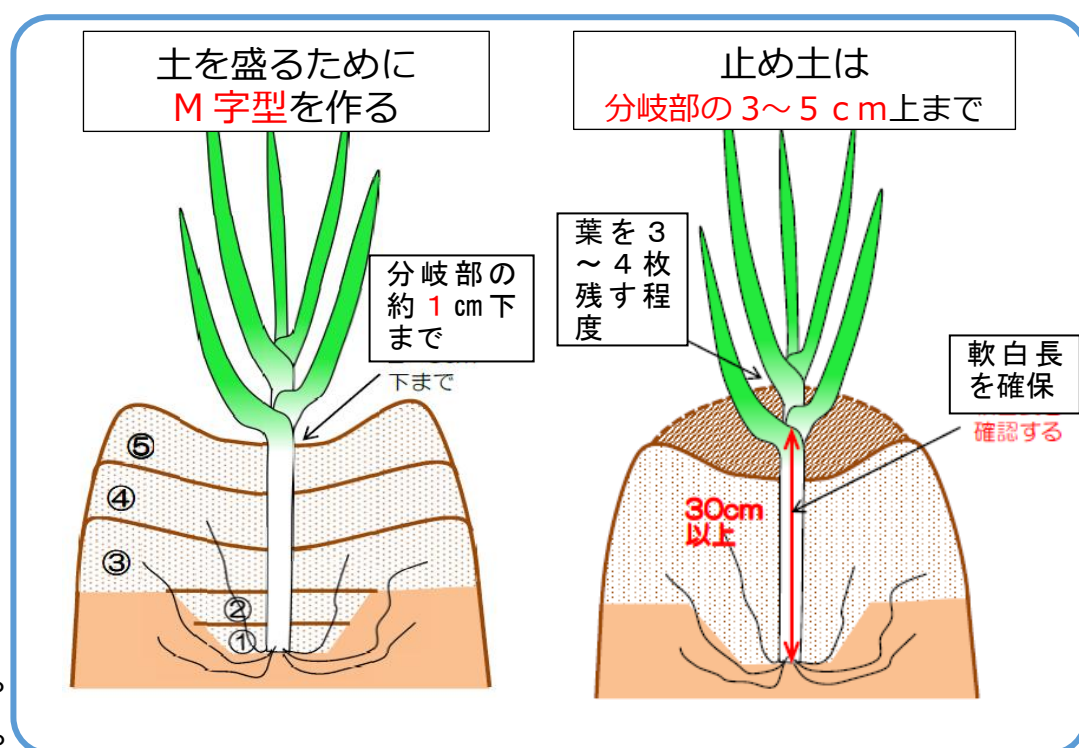


秋冬ネギの出荷規格

(茨城県青果物標準出荷規格)

区分	選別標準		
	本数	太さ	軟白部の長さ
2 L	30	2.3cm以上	30cm以上
L	36	2.0cm以上～2.3cm未満	むき方は成熟葉3葉を残すまでむくことを原則とする
M	45	1.7cm以上～2.0cm未満	
S	55	1.5cm以上～1.7cm未満	

出荷規格に合った、軟白長と太さのネギを目指しましょう



・土寄せの目安

土寄せ	土寄せ高
③	5～7cm/回
④	
⑤	
止め土	5～10 cm

・収穫までに必要な日数

収穫時期	止め土時期
11月	30～35日前
12月	35～40日前
1月	45～50日前

【台風や大雨対策】

○被害：①ネギの倒伏・葉折れ等 ②ほ場の浸水 ➡ 生育不良・病害発生

○対策：台風前（台風通過直後の防除は困難）

①ほ場周囲に排水溝を掘る（植溝＋5～15cmの深さ）

②倒伏防止のために台風前に土寄せ

- ・防風ネット等を用いて倒伏防止に努める
- ・特に、軟腐病が過去に発生したほ場では、台風シーズン前に、土寄せ時に使える粒剤等で薬剤防除する

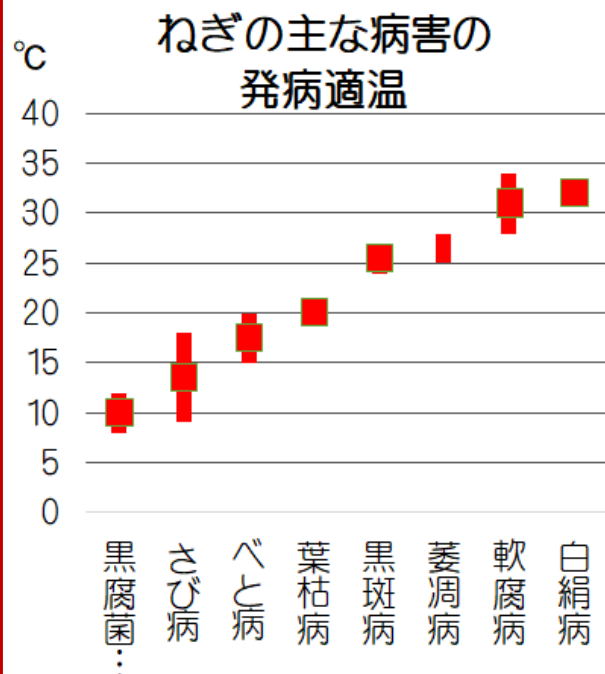
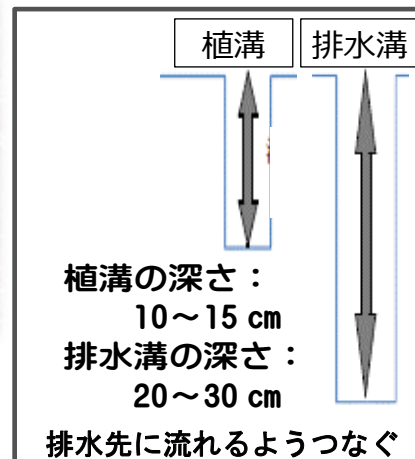
○対策：ネギや畑の状況に応じて

排水 ➡ 中耕土寄せ ➡ 病害防除 ➡ 追肥・葉面散布

台風後：・排水路（明渠）の修復 ・病害防除 ・畝修復、株起こし等



**湿害に弱いため
排水路の確保を！**



病害防除：防除は予防を中心に

○今後は白絹病、軟腐病に注意！

病害ごとに病原菌が異なるので、登録農薬を組み合わせる**予防中心にローテーション**で防除。**発病初期の防除を徹底**。

糸状菌（カビの仲間）

担子菌類

卵菌類

不完全菌類



さび病
赤い斑点



べと病
葉が黄変



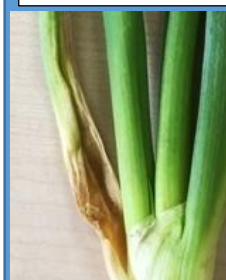
葉枯病
葉先の枯れと黄斑(右)



黒斑病
葉が黒変

細菌

軟化腐敗



**腐敗病(写真)
・軟腐病**

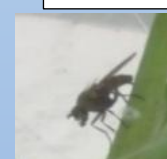
アザミウマ



ハモグリバエ



タネバエ タマネギバエ



害虫防除：高温期は要注意！

※害虫は高温少雨で多発傾向。特に現在、アザミウマが多発傾向。

※ハモグリバエの「新系統」に注意。

※シロイチモジヨトウは7/10現在、発生は少ないが、気温上昇と共に急増するので注意。

○防除は**発生初期が効果的**

○高温期には害虫の世代交代が早まる。薬散間隔は**10日程度が目安**。

○抵抗性発達を防ぐため、**作用が異なる薬剤をローテーション散布**。

ネギへの農薬散布における留意点

○農薬容器の**ラベルに書かれた使用方法等を必ず確認**
【使用時期、希釈倍数（使用量）、方法、回数、注意事項等】

○複数の成分を含む薬剤は**有効成分ごとの使用回数に注意**

○農薬使用は**必ず記録**【いつ、どこ、なに、どれだけ など】

○付着がよくなるよう**展着剤を加え、動噴の圧を高め**に

○使用方法に従って、**十分な量をムラなく丁寧に散布**

◎熱中症や薬害防止のため、**高温時の散布は避ける**

